科目区分　専門教職科目
授業科目名　　国語教育研究１

「国語教育研究１」の授業の検討

国語教育講座　中西　淳

１．講義の概要

本講義は、国語教育の問題点を踏まえた上で授業を構想することのできる力を、さらに、「成長する教師」に必要とされる自問自答の力を育成するところに、その特徴がある。

その目標及び具体的な到達目標は以下の通りである。

＜目標＞

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について考究することができる。

＜具体的な到達目標＞

○自らの問題意識に即しながら国語科教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持って的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。

これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。（関心・意欲）

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。（思考・判断）

２．授業の展開

授業の展開は以下の通りである。

① 国語科教育に関する学びの振り返り
—カリキュラムにおける位置づけ—

② 国語科教育の現状と目標（１）
—新学習指導要領の検討（中学校）—

③ 国語科教育の現状と目標（２）
—メタ認知能力の必要性—

④ 高等学校における新学習指導要領の検討
—新旧と比較して—

⑤ 国語教育実践（高等学校）報告の検討
—困難校における国語教育実践—

⑥ 国語科授業の探究方法
—問いを持つことの重要性—

⑦ 創作指導の検討（1）
—ショートショートの創作—

⑧ 創作指導の検討（2）
—ショートショートの鑑賞—

⑨ 創作指導の検討（3）
—ショートショート教材の可能性—

⑩ 演習発表１
—板書のあり方について—

⑪ 演習発表２
—「少年の日の思い出」の授業案の検討—

⑫ 演習発表３
—文学的文章の指導について—

⑬ 演習発表４
—音読の指導について—

⑭ 演習発表５
—ショートショートの表現について—

⑮ まとめ
—主体的な学びについて—

３．講義の工夫点

本講義は、これまでと同様に基本的に学習者の問題意識に即してその内容を決定していった。これまでの少人数の授業において、その展開の有効性が明らかになったからである。また、深い学びを成立させるためには、受講生の問題意識に即することが重要であると考えたからである。なお、本年度は、変化する教育情勢や受講生の実態に鑑み、以下の２点を授業作りの新たな視点として加えた。

○新学習指導要領への対応

受講生は新学習指導要領のもとに授業を行っていくことになる。新と旧との違いを理解させるための話題設定を教師の側から行った。「国語科教育の現状と目標—新学習指導要領の検討（中学校）—」と「高等学校における新学習指導要領の検討—新旧と比較して—」がそれにあたる。

○発表力の向上

「成長する教師」となるためには、国語教育を探究する力が欠かせない。それを育成するた

めの個人発表の機会を設けた。「演習発表①―板書のあり方について―」「演習発表②―「少年の日の思い出」の授業案の検討―」「演習発表③―文学的な文章の指導について―」「演習発表④―音読の指導について―」「演習発表⑤―ショートショートの表現について―」がそれにあたる。

４．授業外学習について

授業前もしくは授業後に、考えを深める課題を示した。例えば、「創作指導の検討（1）―ショートショートの創作―」では、ショートショートの創作を授業外学習課題とした。

５．授業のアンケート結果

授業後に授業展開・方法に関するアンケート調査（名前は無記入）を行った。以下、受講生のその記述を挙げる（下線＝筆者）。

○「自分が疑問・課題だと思っていることについて深く調べたいという気持ちがあったので調べて意見をまとめることができたのが非常に良かった。（中略）テーマのしぼり方やどの部分で問題があるのかという調査の方向性を考えるのに困難は覚えなかったが、最初からテーマを考えて調査をするとなると、テーマ決めで苦戦するかもしれないと感じました。しかし、それも練習だと思うので、演習を経験することは大切だと考えます。」

○「発表形式の方が調べる労力は必要でしたが、質疑応答をされると、自分の調べが甘いことに気付いたり、新たな問いが生まれたり講義形式よりも発表内容は浅くなるかも知れませんが、当事者意識というか今後の学習に学習に生かせると思います。人数が話ができる程度であれば、意見も言いやすいと思うので、対話の多い授業の方が身につくことも多い気がしました。」

○「演習形式でよかったと思います。（中略）実際に演習をしてみると全然出来ないことがわかって、それに問題点が発表できたのかよかったです。資料の書き方、論の展開、参考資料のつけ方など基礎的なことですが、学べてよかったです。また演習にすることで主体的になれたのもよかったです。もちろん講義であっても受け取り方次第ではありますが、自分自身で調べまとめることを通して、自分の課題にしていたことは最低ふれられました。」

○「これまで授業で１人で調べて発表するという経験がなかったため、かなり戸惑ったが実際に調べていくと知識がつくことで、今まで見えてこなかった新たな問いを見いだしたり、一つの問いについて掘り下げていこうとする中で、その問題を考えることの意義を再認識し、モチベーションが高まったりと、ただ発表や講義を聞いて話し合うだけでは得られなかった学びを得ることができたように思う。負担としては、きつさを感じなかったといえば嘘になるが、それ以上に得られることと、実習前に疑問を一つ取り上げてじっくり考える機会を持てるという点では、この授業で発表する意味は大きいと感じた。」

○「演習発表形式の授業はとても良かったと思う。１．２年次でこういった形式の授業を受けたことがなく、演習を４年、３年後期までに行えたことは大きかった。ただ、その前の創作体験は必要なかったと感じた。他の内容学の授業で創作をしていることもあり（本当はこちらが不要なのだろうが）、教育学に絞って掘り下げたかった。」

○「国語科教育について調べる機会は、教育法１の課題でもあったが、発表となるとやり方が異なってくるので、とても勉強になった。この人数というのもあったが、多少失敗してもいい演習の機会があるのはいいことだと思う。次に受ける国語科教育法４での自分の課題（研究の内容ではなく、調べ方や発表の仕方など方法）を見つけることができたし、質疑応答の雰囲気もつかむことができた。」

６．まとめ

アンケートにおいては、個人の演習形式を取り入れたことに対する評価は高い。創作に対する目的を誤解している受講生が見られるものの、責任をもって発表することによって得られる学びの確さを感じ取っている様子を、総体的に捉えることができる。また、授業においては、活発な質疑応答がなされた。「成長する教師」に必要とされる自問自答の力の形成は着実に形成されていると思われる。さらに、レポートの内容も、その大半が、国語教育のあり方に対する考究的態度を感じ取ることができるものであった。以上より、授業の工夫の効果はあったと考える。